



東大病院からは、東京の新しいシンボル、スカイツリーが見えます。巨大電波塔は、紀南病院からのどっかい眺めを思い出させます。あの大海原は、今日はどんな表情を見せているだろう。スカイツリーと太平洋。うまいこと地域性を象徴しているような。優劣とかじゃなくて、どちらも地域の人々に必要とされ、ともに生きていく存在です。五か月間、大変お世話になりました。医学知識・技量のみならず、医療人としての精神性、世界観も大きく成長したように感じます。紀南での時を重ねるにつれ、地域の医療・文化・人間性が体に染み込んでいく感覚を覚え、そのことに喜びや楽しみを感じる日々でした。十二月は、送別会を開催いただいたり、多くの方々から惜別・激励のお言葉やプレゼントをいただいたりしました。まるで特盛ラーメンを平らげた後にデザートのみかんを山盛りいただいたような、そんなあふれんばかりの満足感。紀南にこられて幸せだったなあ。僕を育て、支えてくださった紀南の皆様、感謝感謝です。また、一段と成長して戻ってきたいです。どうもありがとうございます！、《東大病院 山崎広貴》

三重大病院二年目研修医の水谷です。去年十二月の一月間、内科でお世話になりました。先に研修を終えていた同期達からは、楽しかった、勉強になった、上級医の先生方がすごい！という話をひたすら聞かされ続け、研修前からのかなりの期待と想像が胸にため込まれていました。研修が実際始まってみると、そんな予想はふつとぶくらしい余裕のない毎日でした。地域ならではの患者さんとの距離、医療への考え方や思い、遠慮なく課せられる課題や手技・・・それまでの研修でしてこなかった事はもちろん、経験してはいたはずのことも新しいことに感じて、毎日が楽しくて、まさに矢の如くすぎていきました。同時に、それまで検査や人、資源のそろった環境に甘えきっていた自分を自覚し、焦りを感じたりもしました。そんな中で、紀南での医療や医療者の考え方に触れ、今までとはまた違った医療のあり方を知ることができました。紀南での研修は、自分の将来なりたい医師像がさらに固まった、自分にとって短いけれど大事な一か月だったと思います。もちろん、たった一か月とは思えないほど、あちこち遊びにも行かせて頂きました。熊野古道、勝浦、湊峡・・・本当に楽しかったです。改めて、ぐるぐると考えこみややすい自分に付き合っ指導してくださった先生方、優しく色々教えて下さったスタッフの皆様、「紀南」を教えてください。紀南の皆様、本当にありがとうございます。紀南にまた戻れたら、と思います。《三重大 水谷あかね》



研修医通信 Vol.19



紀南病院を去り、早いもので一か月が経とうとしていきます。みなさんお元気でしょうか。僕はそちらで感じた医療の違いを堺に帰って再度違うなと噛みしめている今日この頃です。三重県では指導医の先生はもちろんのことそれ以外の先生、看護師、スタッフのみなさんには本当に良くしていただきありがとうございます。またどこかで恩返しができることがあれば頑張りますのでよろしくお願いします。《市立堺病院 執行 秀彌》



私は、神奈川県は相模原に生まれ、今年で二十九歳になります。地域研修で紀南病院を選んだのは、医師として成長したいとの気持ちからです。夜行バスで、東京の池袋から七里御浜へ九時間かけ到着すると、広い海を眺めるように、丘の上に紀南病院が静かにたたずんでいました。院内で、最初に私を感じたのは、患者さんが醸し出す、威厳のようなものでした。あれから一ヶ月ちよつと、この地域で、地域医療に理解の深い奥野先生と教育的な指導医の先生、同期の研修医、スタッフ・職員の方々、そして多くの患者さん達と関わらせて頂いてきました。地域は医者ステキにするといいですが、それは患者さんが素敵だからなのではないでしょうか。しかし、それには、こちらにも努力が必要なのだと思います。あと一ヶ月半、将来の種となる経験を出来るだけ多くすべく、頑張りたいと思います。今後ともよろしく申し上げます。《東大病院 岡田浩平》



2週間と短い期間でしたがお世話になりました。研修が始まる前に、『こちらではどんなことがしたいですか？』という質問がありました。欲張りな僕は『いろいろしたい。』と答えたため、総務課の三石さん、山口さんを振り回し、中身がいつぱいつまったプログラムを組んでいただきました。本当にありがとうございます。小児科に関連する研修も組んでいただき、大満足の研修でした。院内では病棟業務そつちのけで外に行つてばかりの僕に指導医の佐藤先生は少ない時間の中で地域医療の素晴らしさを教えてくれました。病気のことだけでなく、地域性や家族背景などいろいろな視点から患者のことを一番に考えた優しさあふれる丁寧なメンテラ、忘年会では自分が一番汚れるんだという根性まで・・・とにかく地域にかける熱い想いをたくさん伝えてくれました。紀南病院からの帰り道、『紀南病院を研修先に選んでよかったな』と同時に『またいつか、ここで働くこともあるのかな・・・』そんなことを考えながら車を走らせていました。今回の研修で経験したこと、感じた想いを忘れずにこれからも精進していきます。ありがとうございます。《鈴鹿中央病院 山下敦士》